

がん治療認定医制度のこれまでとこれから

事務局担当理事 調 憲



日本がん治療認定医機構（Japanese Board of Cancer Therapy：JBCT）は、日本医学会の提言に基づき2006年12月に発足しました。日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の3学会、全国がんセンター協議会（全がん協）の枠組みで発足以来20年が経過しようとしています。JBCTが認定医制度を通して目指してきたことは、がん患者さんが全国どこでも適正ながん治療が受けられるために、がん治療の均てん化を図ることにあつたと思います。この20年の間、がん医療の進歩は日進月歩であり、医療の実践の場でも最先端の科学に基づく技術や豊富な医学的知識を必要とし、エビデンスに基づく医療の実施が求められています。ゲノム医療は日常診療となり、患者さんのゲノム情報やその他の生体分子情報に基づく Precision Medicine の実践ががんの専門医に求められる時代になり、研究成果に基づいた分子標的薬が数多く開発されました。また、近年免疫チェックポイント阻害剤を中心としたがんの免疫療法は、様々ながん種の標準治療となり、従来のがん治療に大きな変革をもたらしました。一方で免疫関連有害事象に対する対策が極めて重要になっています。

また、2020年からの新型コロナウイルス感染症のパンデミックはJBCTの歩みに大きな影響を及ぼしました。それまで受験者が一堂に会した大会場で2日間にわたり行われていた教育セミナーはWeb開催となり、試験は全国の主要都市での分散会場で受けるスタイルとなりました。2022年からは受験者の負担軽減も考慮し、CBT（Computer Based Testing）となっています。また、来年からは「がん対策基本法とがん対策推進基本計画」が総論分野に加えられることとなりました。この20年間、多くの先生方の多大なるご尽力によって、セミナーの内容や試験問題など常にブラッシュアップされ、時代の最先端に対応する形でJBCTは運営されてきました。

しかしながら、この数年は急激な物価の高騰や人件費の高騰などに診療報酬改定は追いつかず、多くの病院が多額の赤字を抱えることになりました。医師の地域偏在や診療科偏在、そして未曾有のスピードで進行する高齢化と人口

減少、そして生産年齢人口の減少など、いわゆる2040年問題によって、長らくわが国の医療を支えてきた社会保障制度の先行きが見えにくくなっています。昨年の「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」におきまして、今までがんの診療提供体制においては均てん化が重要なキーワードでしたが、いわゆる2040年問題や消化器外科医の減少問題に対応するために高度ながんの治療に関しての集約化の必要性が議論されました。このようながん治療を専門とする医療者はがん診療提供体制の再編成という問題に直面しています。

いま一つ気がかりなことは新規のがん治療認定医の数が減少傾向にあることです。約1,000名の新規の認定医が誕生してきた以前に比べると、直近の2年は新規認定数は500-600名に減少しています。結果として、がん治療認定医20,000人を目標の一つとしてきた認定医数もこの数年間18,000人を超えたところで足踏みをしています。この減少の原因としては、がん治療を志す医療者自体の減少やがん専門医のキャリアにおけるがん治療認定医の立ち位置の不明瞭さ等が想定されますが、いまだ明らかにはなっていません。しかしながら、がん医療における専門医制度のあり方も臨床現場のニーズに応える形となるように早急に議論を進めていく必要性を感じています。そのためにはがんの診療に関わられている多くの先生方のご意見を集約し、日本のがん医療を継続可能にする専門医制度はどうあるべきか、その中でJBCTはどのような役割を果たすべきか、検討していく必要があると考えています。

最後に、がん治療認定医制度がさらなるがん医療のボトムアップや均てん化に資する制度となりますよう、皆様のご支援をお願いしたいと思います。

がん治療認定医総数

18,536名

がん治療認定医(歯科口腔外科)総数

728名

2026年4月1日現在

▼ 目 次

がん治療認定医制度のこれまでとこれから	1
2025年度認定医試験報告	2
2025年度認定医および認定研修施設審査結果報告	2
役員一覧	2
重要 今年度がん治療認定医試験はCBTにて開催いたします	3
要ご確認 2026年度更新手続きが6月にスタートします	3

注目 2026年度教育セミナー（e-learning）が無料受講できます	3
2026年度 教育セミナー・認定医試験開催概要	4
2026年度 認定研修施設更新手続・在籍報告について	4
編集後記	4

2025 年度認定医試験報告

教育委員会
委員長 田村 研治

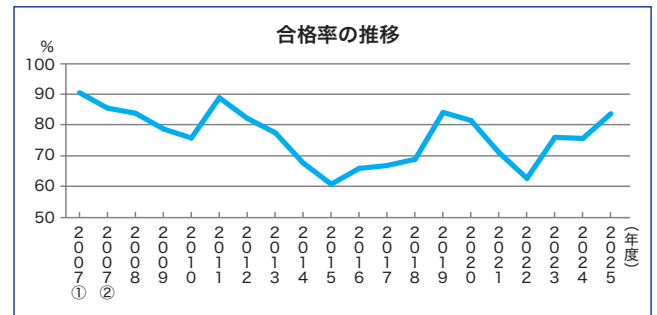


2025 年 10 月 19 日に第 20 回がん治療認定医試験が実施され、796 名が受験しました。今回も CBT (Computer Based Testing) による試験を行いました。合格者は 669 名 (医師 625 名、歯科医師 44 名)、合格率 84.05% (医師 87.05%、歯科医師 56.41%) でした (図 1 参照)。等価評価に基づいた合否判定を行い、各年度の問題の難易度の違いによる不公平をなくしています。結果、現在の認定者数は 19,264 名となりました。更新申請における更新率は 86.3% です。

最近、受験者数は減少傾向を示しています。新専門医制度や、各学会の新たな認定制度の影響が少なからずあると思います。がん治療認定医は、基礎研究・疫学・診断～治療まで、専門性に偏らず、がん治療に従事する幅広い分野の医師が知っておくべき基本的・基盤的知識を学習するのに

有用です。2026 年度より、「がん対策基本法とがん対策推進基本計画」に関する新たな単元を追加したいと思います。がん治療を行う医師の自己研鑽のために、がん治療認定医取得を目指していただければ幸いです。

図 1



2025 年度認定医および認定研修施設審査結果報告

資格審査委員会
委員長 馬場 英司



2025 年度のがん治療認定医認定は 588 名の新規認定と、猶予を含めて 2,580 名の更新認定 (1 回目 697 名、2 回目 786 名、3 回目 1,097 名) を行いました。教育セミナーは例年通り WEB 配信が行われ、認定試験は CBT (Computer Based Testing) 形式で実施いたしました。いずれも概ね円滑に完遂できたと考えられます。継続認定者数は昨年同様であり、更新申請対象者の 1、2、3 回目の申請率は、それぞれ 89.0%、87.2%、84.2% といずれも高い値を維持していることから、本認定医が年余にわたって本邦のがん医療に貢献していることがうかがわれます。

認定研修施設の審査では、新規申請 4 施設は全て合格、

更新申請 60 施設もいずれも合格となりました。新規申請の内 3 施設は、以前研修施設として認定された後に一旦認定外となっていた施設でしたが、指導体制を整えて今回再び認められるものです。基準を満たした認定研修施設として、がん医療を目指す若手医師をより多く育成していただけることを期待しています。

2025 年度がん治療認定医審査結果	
新規合格者数	588 名
更新合格者数	2,580 名

役員一覧

- 理事長 大江 裕一郎
- 副理事長 吉野 孝之 (国立がん研究センター東病院)、影山 幸雄 (埼玉県立がんセンター)
- 理事 調 憲 (群馬大学)、高野 利実 (がん研究会有明病院)、田中 洋史 (新潟県立がんセンター新潟病院)、田村 研治 (島根大学)、土原 一哉 (国立がん研究センター先端医療開発センター)、津端 由佳里 (岐阜大学)、土井 俊彦 (国立がん研究センター東病院)、馬場 英司 (九州大学)、林田 哲 (慶應義塾大学)、張替 秀郎 (東北大学)、菱木 知郎 (千葉大学)、松尾 幸憲 (近畿大学)、三森 功士 (九州大学病院別府病院)、武藤 学 (京都大学)、柳本 愨市 (広島大学)、山上 亘 (慶應義塾大学)
- 監事 土岐 祐一郎 (大阪急性期・総合医療センター)、藤原 俊義 (香川労災病院)、野々村 祝夫 (大阪大学)

重要

2026 年度がん治療認定医試験は CBT(Computer Based Testing) にて開催いたします

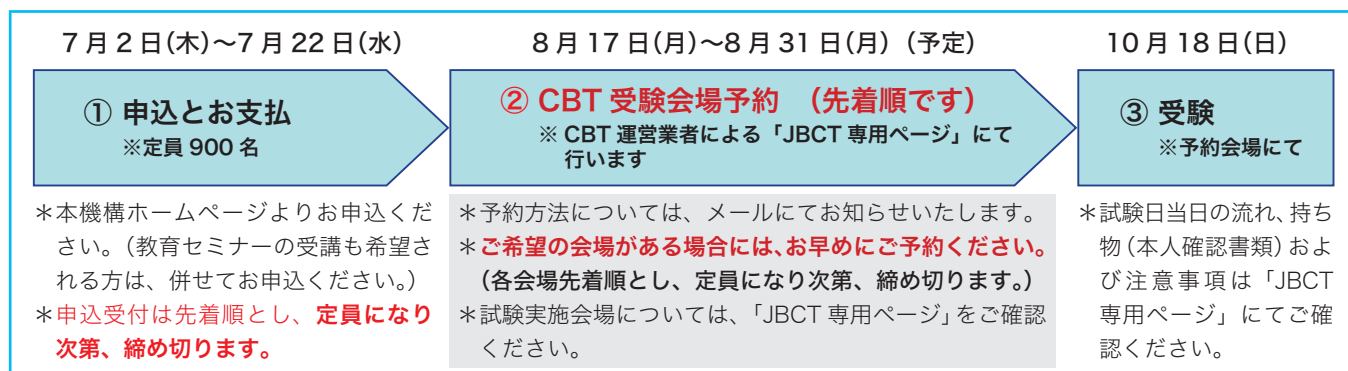


2025年度、CBT (Computer Based Testing) による試験を全国各地計76会場にて実施いたしました(会場数は右図参照)。2026年度もCBTにて開催いたします。

試験会場については、**各会場、先着順の予約**となりますので、優先受付期間内にお早めにお申し込みください。教育セミナーはe-learningの受講となります。

※詳細は本機構ホームページをご確認ください。

【お申し込みから受験までのながれ (定員 900 名予定)】



(参考) 2025 年度試験会場数一覧

都道府県名	会場数	都道府県名	会場数	都道府県名	会場数
北海道	2	石川県	1	岡山県	2
青森県	1	福井県	0	広島県	1
岩手県	1	山梨県	1	山口県	0
宮城県	2	長野県	2	徳島県	1
秋田県	1	岐阜県	1	香川県	0
山形県	0	静岡県	2	愛媛県	1
福島県	1	愛知県	4	高知県	0
茨城県	1	三重県	2	福岡県	4
栃木県	1	滋賀県	1	佐賀県	0
群馬県	1	京都府	2	長崎県	1
埼玉県	2	大阪府	5	熊本県	1
千葉県	2	兵庫県	2	大分県	1
東京都	13	奈良県	1	宮崎県	1
神奈川県	5	和歌山県	1	鹿児島県	1
新潟県	1	鳥取県	1	沖縄県	1
富山県	0	島根県	1	計	76

〈がん治療認定医、がん治療認定医(歯科口腔外科)更新対象者〉



要ご確認 2026 年度更新手続きが 6 月にスタートします

6月より更新手続きを開始いたします。(更新手続きは5年に1度行います。)

2026年度更新対象の方は、ホームページをご確認いただき、MyPageより更新手続きをお願いいたします。

【更新手続きの流れ】 ※詳細は本機構ホームページをご確認ください。

① 更新申請資格の確認 ⇒ ② MyPageへログイン ⇒ ③ 更新申込・更新審査料のお支払い
⇒ ④ e-learning 受講・ミニテスト受験 ⇒ ⑤ 審査申請 Web 登録・提出 ⇒ ⑥ 更新認定料のお支払い

※2024年6月にシステムをリニューアルしております。2024年6月以降に一度もログインしたことがない方は事前にMyPageのパスワード再設定を行ってください。ご登録のメールアドレスを変更の場合は事務局へご連絡ください。

※2021年度以後、Web試験受験は、e-learning受講およびミニテスト受験に変更となっておりますのでご注意ください。



〈がん治療認定医、がん治療認定医(歯科口腔外科)限定〉

2026 年度教育セミナー (e-learning) が無料受講できます

がん治療の知識のブラッシュアップを随時行っていただけるよう、がん治療認定医/がん治療認定医(歯科口腔外科)の方へ、当機構の教育セミナーを今年も配信いたします。

◆受講期間：2026年11月~2027年2月(予定)

◆費用：無料

◆内容：2026年度教育セミナーおよび
テキスト第20版(PDF)
※テストはありません。

◆受講方法：ご自身のMyPageよりアクセスしてください。

◆注意事項：・更新猶予期間中は受講はできません。

・修了証は発行されません。

・**がん治療認定医の更新の申請資格としては使用できません。**

※詳細は、2026年10月下旬頃、ご登録のメールアドレス宛にお送りしますのでご確認ください。

2026年度 教育セミナー開催概要

開催に関する詳細につきましては、HPをご確認ください。

開催日程 2026年10月2日(金)13時
～10月17日(土)24時

開催方法 Webによる開催

申込期間 7月2日(木)～7月22日(水)
本機構HPよりお申込みのうえ、所定の金額をご入金ください。

定員 900名

費用 教育セミナーのみ 14,410円
認定医試験のみ 14,410円
セミナー・試験両方 25,410円
※いずれもテキスト代・事務手数料・消費税込

！ テキストは、8月末までに送付いたします。
必ず事前に予習をしたうえで、受講・受験に臨んでください。

●教育セミナー 講義内容一覧

★：新分野が追加になりました。 ※分野名が変更になりました。

I：がん治療に求められる基盤的知識

- ★ 1. **がん対策基本法とがん対策推進基本計画**
(松岡 豊・国立がん研究センターがん対策研究所)
- 2. **がんの生物学・分子生物学**(川上 尚人・東北大学病院)
- ※ 3. **遺伝性腫瘍症候群**(植野 さやか・藤田医科大学医学部)
- 4. **腫瘍免疫学**(富樫 庸介・岡山大学学術研究院医歯薬学域)
- 5. **がんの疫学・がん検診**
(澤田 典絵・国立がん研究センターがん対策研究所)
- 6. **臨床研究と統計学**(口羽 文・帝京大学大学院 公衆衛生学研究所)
- 7. **病理学(分子病理学を含む)**
(谷田部 恭・国立がん研究センター中央病院)
- 8. **画像診断学**(渡辺 裕一・国立がん研究センター中央病院)
- 9. **外科治療学概論**(三森 功士・九州大学病院別府病院)
- 10. **化学療法概論**(佐藤 靖祥・東京大学医学部附属病院)
- 11. **分子標的薬概論**(内藤 陽一・国立がん研究センター東病院)
- 12. **免疫療法概論**(市原 英基・岡山大学病院)
- 13. **放射線療法概論**(伊藤 芳紀・昭和大学医学部)
- 14. **緩和医療特論**(井上 彰・東北大学大学院)
- 15. **精神腫瘍学(サイコオンコロジー)**(稲垣 正俊・島根大学医学部)
- 16. **がん救急**(藤阪 保仁・大阪医科薬科大学)
- 17. **がんの診療と倫理**(佐藤 潤・国立がん研究センター中央病院)

II：各種悪性疾患の診断と治療の基本原則

- 1. **脳腫瘍**(園田 順彦・山形大学大学院 医学系研究科)
- 2. **頭頸部がん**(山崎 知子・埼玉医科大学国際医療センター)
- 3. **食道がん**(森田 勝・九州がんセンター)
- 4. **胃がん**(高張 大亮・群馬大学医学部附属病院)
- 5. **大腸がん**(庄司 広和・国立がん研究センター中央病院)
- 6. **肝がん**(平岡 淳・愛媛県立中央病院)
- 7. **胆道がん・膵がん**(井岡 達也・山口大学医学部)
- 8. **肺がん**(吉岡 弘鎮・獨協医科大学埼玉医療センター)
- 9. **乳がん**(尾崎 由記範・がん研究会 有明病院)
- 10. **婦人科がん**(原野 謙一・国立がん研究センター東病院)
- 11. **骨・軟部腫瘍**(小島 勇貴・国立がん研究センター中央病院)
- 12. **泌尿器科腫瘍**(近藤 千紘・埼玉県立がんセンター)
- 13. **皮膚がん**(並川 健二郎・国立がん研究センター中央病院)
- 14. **白血病**(山内 高弘・福井大学医学部)
- ※ 15. **リンパ腫・多発性骨髄腫**(福原 規子・東北大学病院)
- 16. **小児がん**(竹谷 健・島根大学医学部)

2026年5月現在(カッコ内 講師名)

2026年度 認定医試験開催概要

開催に関する詳細につきましては、HPをご確認ください。

開催日程 2026年10月18日(日)
受付時間 12時30分～12時45分
試験時間 13時00分～14時25分(85分)

開催方法 CBT(Computer Based Testing)

開催会場 各CBT会場(全国47都道府県)
※開催しない県・会場が発生する場合があります。

申込期間 7月2日(木)～7月22日(水)

**受験会場
予約期間** 8月17日(月)～8月31日(月)
本機構HPよりお申込みのうえ、左記教育セミナー開催概要に記載の所定の金額をご入金ください。その後、受験会場予約期間に会場予約を行ってください。

定員 900名 (※ただし会場毎に定員あり)

認定研修施設

2026年度 更新手続・在籍報告について

更新手続

対象施設 2022年4月1日付で認定または更新認定された施設で、更新を希望される施設

更新手続 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設更新通知書」をお送りいたします。(詳細は、HP「認定研修施設更新申請」をご確認ください。)

在籍報告

対象施設 更新手続対象(上記)以外の施設

提出方法 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設在籍報告のお願い」をお送りいたします。(詳細は、HP「認定研修施設在籍報告」をご確認ください。)

！ 認定研修施設の審査基準をご確認のうえ、更新手続または在籍報告を行ってください。
<https://www.jbct.jp/facilities/outline.html>

編集後記

このたびJBCTニュース第13号を発刊いたしました。今回も認定試験情報や試験実施報告などを中心としたラインナップとしておりますので、ご参考にしていただければと思います。本号では当機構調理事に寄稿いただいておりますが、その中で触れられているように、がん治療認定医の数が頭打ちになってきています。がん治療認定医は、日本におけるがん治療の均てん化において重要な役割を果たす認定医です。がん治療を地域格差なく提供するために、本機構は今後もその育成を進めてまいります。その意義をご理解いただき、若手医師にがん治療認定医の取得をお勧めいたしますようよろしくお願い申し上げます。

(広報・渉外委員会委員長 張替秀郎)